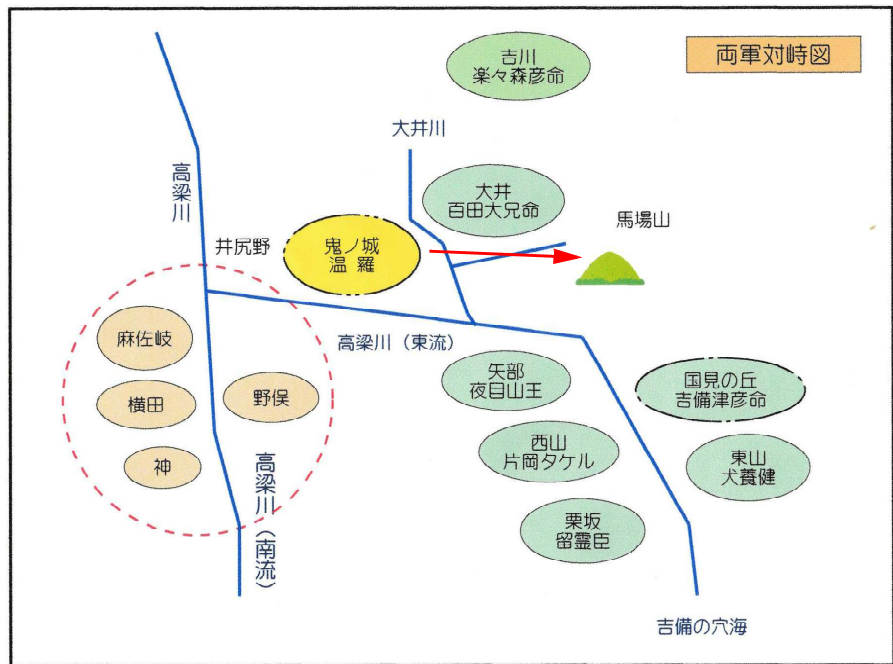


## 9 温羅退治に隠されたもう一つの使命

「吉備津神社縁起」に記す温羅退治開戦までのあら筋は次のとおりです。  
異国の鬼神が吉備の国にやってきた。名は温羅と言ひ百濟の王子との説もある。備中の国鬼ノ城に城を築き、西国から都へ奉る貢船を襲い、捕虜は「鬼の釜」へ放り込んで煮殺し、近隣の婦女子を略奪した。里に住む人々は都の天皇へ訴え、朝廷も武将を派遣して討伐を試みるが、温羅の手玉にとられ、空しく都へ引き上げた。

かくて武勇の誉れ高い吉備津彦命（イサセリヒコノミコト）が派遣されることになった。ミコトは軍を率いて吉備の国へ。途次、「吉備の道の口」播磨の氷河で戦勝祈願を行った。いち早くこの場へ駆け付けた大井の百田大兄命は、ミコトを「前ツ国」から「中ツ国」へ先導し吉備の中山を本拠「国見の丘」として布陣した。

ミコトの到着を伝え聞いて馳せ参じた在地豪族の面々を示せば下図のとおり。今も、大井の百田大兄命は大井神社、矢部の夜目山王は鯉食神社、西山の片岡タケルは楯築宮、栗坂の留霊臣は旧庄村の栗坂神社にその名を留める。（同前峰雄著：桃太郎譚）



右の図を見れば百田大兄命が鬼ノ城に一番近いことが分かる。「鬼ノ城縁起」

によれば、温羅は大井の馬場山への的場を設け、日頃より矢を撃ちかけていたということですから、百田大兄命がいち早くミコトの元へ走ったことも分かろうというものです。

さて、温羅とミコト戦の結末まで語ることはありませんが、腑に落ちないのが図中の西部（現総社市）の野俣、麻佐岐、横田、神の面々の動向です。温羅退治に加わった様子はありません。何故でしょうか。果たして彼らの共通点は出雲族ということなのです。

出雲神話には、大国主命が少彦名命と協力して四国道後温泉を開き、琴平まで勢力を及ぼした伝説があります。高梁川を下り陸続きの吉備国へ勢力を伸ばすことなど簡単なことだったでしょう。

皆様は、式内社という言葉をご存知ですか。これは、延長5年（927）にまとめられた延喜式神名帳に載る神社のことで、古くからあった神社ということです。

この中には、ミコトの元に集まった在地豪族の名は見えませんが、総社近辺の出雲族はこの神名帳に載るお社なのです。つまり、古くから温羅達とうまくやってきた彼等からすれば、自分達の敵対勢力である大和のミコトへ味方することなどあり得なかつた訳です。

つまり、視点を変えれば、四道將軍としてのミコトは、温羅のほか出雲勢力の制圧という

もう一つの使命を帯びて吉備へ侵攻してきたと考えることもできるのではないのでしょうか。

果たして、温羅を討ったミコトは、返す刀でタケヌカワワケノミコトと力を合わせて出雲振根を倒しているのです。吉備津神社の建物が北を向いているのは、出雲勢力に対する備えとの考え方もあると聞きますが、これが大和の本性ではないのでしょうか。

さて話しは変わりますが、ミコトの妃、百田弓矢媛命は温羅退治の戦の最中に死亡し、高田媛が後妻に納まったという伝説がありますが、都宇郡妹尾村西磯（現岡山市南区妹尾）の御前神社縁起（吉備津神社縁起の書き写しとも）に弓矢媛に関する次の記述を見付けました。

温羅退治はミコトの勝利に終わりましたが、温羅の残党、青太魔、赤太魔が隼島（都窪郡早島町）に立て籠もり通い船を襲うなどの悪さをするので、ミコトは栗坂嶋名等に討伐を命じたのですが、青太魔等の抵抗は激しく、ついにミコトの軍隊が花尻の津から出動します。戦うこと7～8日にしてようやく賊将の首級を挙げることができました。とその時、一天俄



同社拝殿

にかき曇り海は大荒れに荒れ、船人は船を磯に漕ぎ着けようと必死に櫓を漕ぎます。汗が流れて目、口に入り苦しみました。この場所を今でも「汗入の浜」と呼びます。ミコトは叔奈麻呂に命じて綿津見神に祈らせました。すると大きな白い亀がミコトの船に寄り添い、嵐も治まりました。ミコト達は命拾いをしたのでした。

そこで戦の後、ミコトは白亀が現れた磯に底筒男神等を、また、汗が目、口に入った「汗入の浜」近くに社を建て綿津見神（豊玉彦命・豊玉比売命）を祀ったのですが、その時、妃の百田弓矢媛命が吉備津宮から「汗入の浜」へおいでになったのだそうです。

そして、ミコトと弓矢媛命が北（つまり吉備津宮）へお帰りになった行宮の跡へ、ミコトと弓矢媛命を祭神とする妹尾の産土神、御前神社が創建されました。

御前神社の佐藤典子宮司のお話では、弓矢媛の御神体は木造立像で、ミコトとの二体が本殿にお祀りしてあるそうです。

このとおりであれば、弓矢媛が温羅との戦の最中に死んだという話しはあり得ません。

しかし、何せ神話の時代の話しですから今更確認する術はありません。

なお、全くの私的な考えですが、先妻、後妻論は、後世、つまり、明治になっての創作ではないのでしょうか。

吉備郡神社誌（大正5年 岡山県神職会吉備郡支部発行）には、高田姫命、遣霊彦命について、御系譜並御事歴未詳と記録されています。



妹尾御前神社



拝殿と本殿・左奥が御前神社本殿